LED方式大型映像装置
長期レンタルサービス開始
東京メディアコミュニケーションズ

会見する二本木氏

東京メディアコミュニケーションズ（TMC／東京都新宿区、秋山正樹社長）は5日、都内で記者会見を開き、街頭大型ビジョンやデジタルサイネージなどの常設大画面市場に向けて、LED方式大型映像装置の「長期レンタル」サービスを開始したと発表した。

従来のファイナンス・リースや買い取りなどに比べ、導入時やシステム改修時の投資金額を圧縮できるほか、月々のランニングコストが明確化するため、大型ビジョンの安定的な運用が図られるとしている。

既に第1弾として、広告会社とのレンタル契約が決まっており、都内の大型映像媒体のリニューアルに活用されるという。

会見した同社の二本木毅専務は、「これまでのLED大型ビジョンの販売はリース契約が中心だったが、リース会社による与信が下りないケースも多かった。当社の新方式では、大型ビジョン事業20年の経験を生かした独自の与信システムを構築。3年以上の長期レンタルになるので、月々の運用費も経費として計上できる。また設置工事費も含まれるため、これまでよりハードルが低い形、かつ安価に大型ビジョン事業への参入が可能となる」などと話した。

二本木氏は、今春までに大型映像レンタル事業国内トップでLED大型ビジョンメーカーでもあるヒビノの取締役を務めていた。今回のプロジェクトでは、そのヒビノと提携、大型映像にはヒビノ製大型LED「Chromawall（クロマウォール）12」（12ミリピッチ、SMD型／200型から）を基本システムとして採用する。

二本木氏は「この製品は屋内外兼用で、輝度は4200cd㎡。設置作業が容易なファンレス・軽量LEDモジュールを採用しており、さまざまな利点がある。他のピッチサイズの導入も今後検討していきたい。大型映像のレンタル事業でノウハウのあるヒビノと、街頭大型ビジョン運用で実績のある当社が組むだけあって、信頼性も高まるだろう」などとアピールした。

TMCが運用する街頭大型ビジョン「UDXビジョン」（パナソニック製）

レンタルは3年以上の契約で、その後は1年ごとに更新。料金は200型サイズの場合で月額70万円から。販売目標は初年度で20台。

現在の筆頭株主はJ.E.SCOホールディングスで、ヒビノとパナソニックも出資する。

今後は「街頭大型ビジョンのみならずデジタルサイネージ分野へも幅広く展開していきたい」（二本木氏）としている。

（パナソニック製）の運用も手掛ける。

オックスプランニング
デジタルサイネージ市場向けクラウド型映像配信システム
丸紅から事業を譲受

オックスプランニング（東京都渋谷区）は、デジタルサイネージ市場向けのクラウド型映像配信システム「Instvision」事業を丸紅から譲受した。これにより、業態や施設規模、映像機器の種別を選ばずに幅広くデジタルサイネージの設置から運用までの対応が可能になった。商品名を「クラウドエッジ」に改めて販売する。

シャープ
3D対応液晶テレビ
民生用最大級の70V型
米国、中国に続き日本で発売

「AQUOS クアトロン3D LC-70X5」

シャープは、9月1日に大阪市内で新製品発表会を開き、国内の民生用液晶テレビとしては最大級の画面サイズとなる70V型の3D対応液晶テレビ「AQUOS クアトロン 3D LC-70X5」（市場想定価格は80万円前後）を9月25日から発売すると発表した。

新製品には32V型の4倍以上の大きさとなる70V型の液晶パネル（画面サイズ＝横153・9×縦86・6ミリ）を搭載した。色表現力を高める「4原色技術」に加え、高い表現力と高コントラストを実現する「メガブライトネス技術」を新たに採用。従来表現できなかった太陽、照明の輝き、金属の光沢感などをリアルに再現できる。

さらに、ホームシアター用ディスプレー規格として権威ある「THX 3D 認証ディスプレー規格」を取得。8スピーカーシステム「ARSS」や低振動ウーハー「Duo Bass」採用で、「大画面」と「高画質・高音質」を実現した。

70V型テレビの発売は、今春の米国、7月の中国に続き、3カ国目となる。会見したAVシステム事業本部液晶DS第1事業部副事業部長の宗後昭広氏は、「先行発売した米国や中国での当初の売れ行きは好調。当社のフラッグシップモデルの位置付けとなる。液晶テレビは50V型以上を拡充して売り上げを伸ばす方針だ。70V型は月産3000台の予定」と話す。

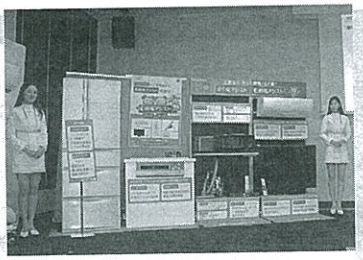
片山幹雄社長も6月の経営方針説明会で「大阪・堺工場の第10世代大型液晶パネル生産ラインの優位性を生かすためには、50V型以上の液晶テレビ市場の拡充・拡大が急務」と語っていた。

AV評論家の村瀬孝矢氏は、「Xシリーズは、アクオス4原色の最高画質が得られている。4倍速動作を採用したので、従来のような動画ボケは少ない。シャープとしては最高峰の液晶テレビ」と評価している。

なお、デジタルサイネージ用途などの業務用の70型液晶ディスプレーの発売も前日（8月31日）に発表した。

節電アシスト機能を充実
液晶テレビ新製品発表
三菱電機

三菱電機は1日、東京都中央区のベルサール八重洲で液晶テレビなど家電新製品を発表した。今回は、リビング・デジタルメディア事業本部長の梅村博之氏は、「昨年まで〝らく楽アシスト〟をコンセプトに展開してきたが、三菱家電は優しい、使いやすいを追求させた。そして今年は〝節電〟を新たに取り入れた。これを差異化として今秋モデルを積極的に販売する」などと話した。


三菱電機の新製品発表会の模様

液晶テレビの新製品は55V型、46V型、40V型のHDD&ブルーレイディスク（BD）内蔵モデルと、40V型と32V型の3D対応モデルの5機種。

BD、HDD搭載の3インワンモデルMDR2シリーズでは、LEDバックライトの省エネ機能、省エネ化を促す節電ボタン、人感センサーなどの節電アシスト機能を搭載した。3D対応とダイヤトーンスピーカー技術による高音質、さらに高画質が特徴。外付けHDD対応モデルを用意したのも新機軸となる。

発売中

映像新聞　縮刷版
2010年後期版（7月～12月）

半年分の映像新聞を1冊にまとめた「2010年後期縮刷版」が発行となりました。めまぐるしく変化する映像業界の動向を集約する「映像新聞縮刷版」は、目次には、「特集」「放送」「CATV／CS」「プロダクション」「CG／デジタル映像」「BB／通信／インターネット」「CM」「映画／アニメーション」「映画祭／映像祭」「プロ機器」「民生用機器」「ソフトビジネス」などの項目を掲載し、業界の動向が簡単に索引できるようになっております。企業のビジネス戦略において、貴重な情報ツールとして、また、保存版の映像新聞として広くご利用いただいております。縮刷版は1979年から発行し、1985年から年2冊（1月～6月、7月～12月）刊行しています。

仕様：A4判／価格：7,350円（税込、送料別途）

ご購入は映像新聞ウェブサイトからお申し込みいただけます　www.eizoshimbun.com
アマゾン（www.amazon.co.jp）、富士山マガジンサービス（www.fujisan.co.jp）からもご購入いただけます

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ

株式会社映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル／TEL:03-3942-2161／FAX 03-3942-2581　e-mail:info@eizoshimbun.com